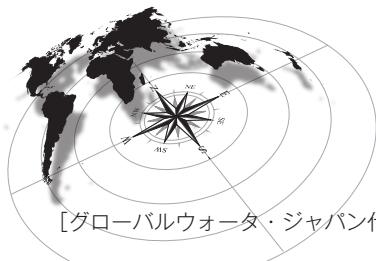




グローバル・ウォーター・ナビ ■■■■■■■■■■ 82

日本が主導する「第4回アジア・太平洋水サミット」、熊本で開催



〔グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー〕

吉村 和就



1. はじめに

アジア・太平洋地域は、「世界の成長センター」とも言われ、域内21ヵ国で世界人口の約4割、世界貿易量の約5割、世界GDPの約6割を占める重要な地域である（外務省令和4年1月発表）。その地域に居住する約30億人の生活や経済発展の土台（社会インフラ）を支えているのが水資源である。

認定NPO法人「日本水フォーラム」は2007年12月、「第1回アジア・太平洋水サミット」を大分県別府市で開催し、アジア・太平洋地域における持続可能な水資源の啓蒙や技術・知識の共有などを主導してきた。

今回は、15年ぶりに日本で開催される「第4回アジア・太平洋水サミット」の概要を紹介する。この水サミットでの活動が、アジア・太平洋地域の「持続可能な発展」に向けた、大きな貢献となることを期待したい。

（さらなる詳細内容は、日本水フォーラムのホームページをご参照願います）

2. 第4回アジア・太平洋水サミットについて

日本水フォーラムが事務局を務めるアジア・太平洋水フォーラム

（Asia-Pacific Water Forum : APWF）は、熊本市と共同で「第4回アジア・太平洋水サミット（APWS）」を2022年4月23日・24日に開催する予定である。

APWSは、開催国政府・開催地の都市とAPWFが共催し、アジア・太平洋地域が抱える水問題に対する認識を深め、その課題解決を目的とした国際会議である。国際機関、開発金融機関、NGO、企業、学会等が国内外の叡智を結集し、アジア太平洋地域の首脳級をはじめとする政策決定者に対して、持続可能な発展に向けた道筋や取り組みを、水の観点から示すことを目的としている。

水問題の解決にはトップリーダーの強い指導力が必要であることから、APWSは各国の首脳自身

が「水」に関する自国の現状・問題点とトップリーダーの考え方を自由に述べ、その知見を共有し合うことで相互確認、確信を得ていく機会を提供することが特徴である。日本での開催は、前述の如く15年ぶりとなる。今回の第4回APWSの円滑な実施のため、2019年3月26日、外務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、環境大臣による閣議請議が行われ、関係する行政機関が必要な協力を行うことが閣議了解された。

1) 第4回アジア・太平洋水サミット（APWS）の概要

【開催日時】2022年4月23日（土）、4月24日（日）

【共催機関】アジア・太平洋水フォーラム（APWF）、熊本市

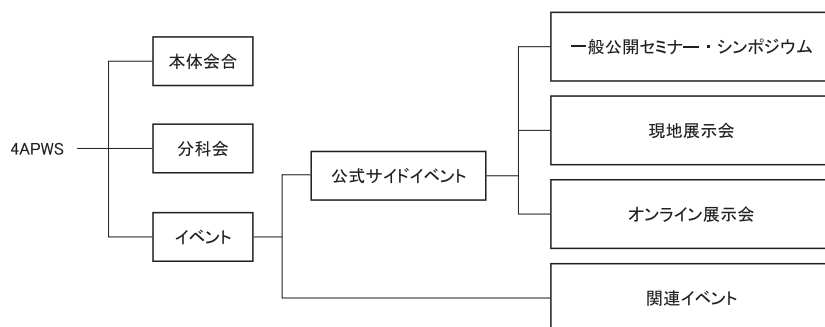
【会場】熊本城ホールおよびオンライン（※新型コロナウイルス感染症の状況によりオンライン開催となる場合がある）

【参加者】

- ・アジア・太平洋地域各国の首脳級、閣僚級、政府高官
- ・国連・国際機関のトップ、研究機関、NGO、他
- ・分科会や統合セッションに参加



▲桜町地区市街地再開発事業の一環として整備された熊本城ホール
（＝矢印／出所：熊本市ホームページ）



▲第4回APWSの構造（出所：日本水フォーラムホームページ）

をする専門家・実務者

(1) 9つの分科会トピックス

1. 水と災害、2. 水と食料、3. 水供給、4. 衛生・汚水管理、5. 水と環境、6. 水と文化と平和、7. 水と貧困・ジェンダー、8. 地下水を含む健全な水循環、9. ユースによるリーダーシップ・イノベーション

(2) 4つの統合セッションのトピックス

1. 科学技術、2. ガバナンス、3. ファイナンス、4. 水関連SDGsとアフターコロナへの対応

2) 期待される成果は

首脳級会合では、各国の首脳級が、各国の水課題に関する状況や取り組みを共有し、コロナ禍からの復興において、様々な水問題を解決するためのリーダーのイニシアティブを議論する。その上で、第4回APWSに参加した首脳級の決意を記した宣言文書を採択することを目指している。首脳級会合を受けて、各行動の実施に関する9つの分科会と4つの統合セッションの責任者が、その内容を取りまとめる。

今回、得られた成果は、2023年3月にニューヨーク国連本部で開催される「国連・水会議」において、国連が提唱するSDGsの達成に向けて、「第4回APWSの成果

文書」を国際社会に発信する。もちろん、その成果に基づき今後のアジア太平洋地域および世界の水課題の解決に寄与していくための取り組みを継続的に進めてゆく予定である。

3. これまでの「アジア・太平洋水サミット (APWS)」の開催実績

1) 第1回APWS (2007年、大分・別府で開催)

- 日本の皇太子殿下(当時)、オランダの皇太子殿下(当時)、首脳級10名、大臣級32名をはじめ、合計371名が参加。
- 成果：「別府からのメッセージ」の採択。
- 水問題の解決が最優先であるこ

とを再確認し、2000年国連ミレニアム開発初目標(MDGs)を越えた2025年までの目標を設定。
 ・首脳級会合として、初めて水災害を優先課題として位置づけた。

2) 第2回APWS (2013年、タイ・チェンマイで開催)

- 参加者：首脳級18カ国、閣僚級16名を含む300名以上が参加。
- 成果：「チェンマイ宣言」を採択。
- 水と衛生を国家政策の優先事項として定め、災害リスク低減をSDGsに盛り込むよう国際社会に発信した。

3) 第3回APWS (2017年、ミャンマー・ヤンゴンで開催)

- 参加者：16カ国からの20名の首脳・閣僚級を含む39カ国・700名以上が参加
- 成果：「ヤンゴン宣言」を採択。第3回APWSには、筆者も出席したので、当時の概要を詳述する。オープニングセレモニーでは、アウン・サン・スー・チー国家最高顧問兼外相(当時)が主催国として「国が経済成長を果たすために水の安全保障は不可欠であり、



▲第3回APWSで登壇した閣僚級参加者（写真は筆者撮影、以下同じ）



▲開会式で挨拶したアウン・サン・スー・チー国家最高顧問(当時)

今回のサミットの成果を期待している」と挨拶。その後各国の代表が挨拶し、日本から石井啓一国土交通大臣(当時)が「日本には水問題の解決、特に多くの水災害を克服してきた制度、技術、ノウハウが蓄積されている。これら日本の経験を皆様と共用し、アジア太平洋地域のさらなる発展に寄与したい」と力強く基調講演し日本の貢献策を述べた。

◆日本の貢献 石井大臣の各セッションでの挨拶概要

石井大臣は、①気候変動下の水と災害、②水循環の再生として、雨水利用と持続可能な地下水管理、③衛生の改善と下水道の管理、についての3つセッションにて、特に水循環の重要性と水災害の防止策を強調するとともに、日本の貢献策を述べ日本の存在感を示した。また2017年ミス日本「水の天使」の宮崎あずささんも和服姿で参加、各国の閣僚と記念写真に並び日本をPRした。

◆ヤンゴン宣言

最終日12日は、討議の成果を踏まえ、「持続可能な開発のための水の安全保障」について、アジア太平洋地域の各国が取り組むべき道筋を示す、「ヤンゴン宣言」が採択された。宣言では、水資源の確保、洪水対策、水災害の減災、水の有効利用、投資の拡大など幅広い目

標と具体的な行動策が示された。特に国連が提唱する2030年までの「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成目標より5年早め、アジア太平洋、すべての地域で「安全で安心な飲料水の供給、衛生的な環境を提供する」。そのために「水関連災害リスクの低減や水道整備などのインフラ投資を倍増する」などと、意欲的な行動の道筋が盛り込まれた。さらに日本が提唱してきた「健全な水循環の考え方」や「事前防災の重要性の視点」なども織り込まれたことは特筆に値する。

4. 第4回APWS関連イベントの開催について

依然としてコロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るっているため、コロナ禍前のように、国内外の多様な参加者が一堂に集まり、議論を行うことが難しい。一方、オンラインを通じた国際会議の開催が普及していることから、第4回APWSにおいても、オンラインツールを適切に活用し、世界中の多くの方々に第4回APWSにおける議論を配信する予定である。

その一環として、アジア・太平洋水サミット事務局は、第4回APWSの開催日の前後などに、別の会場で、水に関する意識啓発などを広く情報発信することを目的

としたイベントを主催する団体を募集し、関連イベントとして認定する。応募締切は2022年3月23日(水)。その詳細は、第4回APWSホームページを参照のこと(<https://apwf.org/kumamoto-2022-jp/related-event/>)。

おわりに

コロナ禍で多くの水に関する国際会議、例えばストックホルム国際水会議やIWA世界会議などが中止や延期になる中、日本で開催される第4回APWSは、貴重な機会であり、ぜひ日本の叡智や普及に向けた取り組みをアジア・太平洋地域のみならず全世界に発信し、各国が水に関する持続可能な発展をつくる手助けができることを期待したい。

【参考文献】

1. 認定NPO法人日本水フォーラムホームページ：<https://www.waterforum.jp/>
2. 朝山由美子著『第四回アジア・太平洋サミットの開催について』水道公論 Vol.58 p58-62 日本水道新聞社 2022年2月号
3. 吉村和就著『第三回アジア・太平洋水サミット ミャンマー・ヤンゴン市で開催』下水道情報 第1860号 p16-18 公共投資ジャーナル社 平成30年1月30日



▲第3回APWS 会場での筆者



▲右から「水の天使」宮崎あずさ氏、石井啓一国土交通大臣(当時)、竹村公太郎氏(日本水フォーラム事務局長)